

令和7年度 第1回石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 議事録

要点筆記

■日時：令和7年8月28日（木）13時～14時30分

■場所：石狩市民図書館 視聴覚ホール

■出席者：下記表のとおり

委員		事務局	
役職	氏 名	所 属	氏 名
委員長	田岡 克介	社会教育部市民図書館館長	伊藤 学志
委員	石橋 孝夫	社会教育部市民図書館副館長	工藤 一也
委員	村山 耀一	社会教育部市民図書館主任	吉岡 律子
委員	三島 照子	社会教育部市民図書館主事	有好 一晟
委員	志賀 健司		
委員	工藤 義衛		

■傍聴者：なし

次第1 開会

【事務局（工藤副館長）】

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
事務局を担当しております、市民図書館の工藤です。どうぞよろしくお願いいたします。
定刻でございますので、只今より「叢書発刊編集委員会」を開会いたします。

次第2 図書館長挨拶

【事務局（工藤副館長）】

それでは、令和7年度第1回の委員会開催にあたりまして、館長の伊藤よりご挨拶を申し上げます。

【事務局（伊藤館長）】

本日は皆さん、ご多忙の中お集まりいただき有難うございます。本委員会は、前回が今年の2月ということで、半年ぶりの開催となりました。第4巻の発刊が決まりましてから、委員の皆様におかれましては、幾度にわたる取材活動あるいは猛暑の中での執筆活動にご協力いただき誠に感謝申し上げます。おかげさまで、今回、原稿が出揃うことができました。原稿の内容や、直接油田に関わった皆様の生の声を通じ、テーマである油田が、本紙の歴史や文化、産業、自然科学、そして当時の暮らしぶりを伺い知る上での貴重な遺産であるということを確認することができました。叢書第4巻も前3巻と併せて、この後残っていく地域の大切な記録として、油田にまつわるエピソードを通じて、本を手にした様々な世代の方々が本市の魅力や故郷への思いを深めていただけることを期待しております。第4巻の発刊作業は、これから原稿の校正にも力が入って行く段階を迎えてまいります。年度内の発刊に向けまして、引き続き皆様のご協力をお願いし挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（工藤副館長）】

続きまして、4月に人事異動がありましたので、あらためて事務局の自己紹介をさせていた

できます。私、副館長の工藤です。

【事務局（吉岡主任）】

引き続き担当をさせていただきます、吉岡です。よろしくお願いいたします。

【事務局（有 好）】

新しく4月から異動してまいりました、有 好です。よろしくお願いいたします。

【事務局（工藤副館長）】

次に、議事録の関係ですが、本委員会は審議会の位置づけとなっておりますことから、議事録を石狩市 WEB サイトに掲載することになっています。引き続き要点筆記により取り進めて参りたいと考えておりますが、皆様方よろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし

【事務局（工藤副館長）】

それでは、これ以降の議事につきまして、田岡委員長よろしくお願いいたします。

次第3 議題（1）石狩叢書第4巻の全体構成について

【田岡委員長】

暑期中集まっていただきましてありがとうございます。皆さんにお願いしていた原稿をベースに話を進めていきたいと思えます。具体的な内容について話すとなると、時間内に収まらないかと思えますので、皆様が読んでいた中での共通の問題提起、感想や意見、編集のやり方、構成順などを話していただけたらと思えます。では早速議事に入りたいと思えますが、まず事務局の方でたたき台をまとめていただいておりますのでその説明をお願いします。

【事務局（工藤副館長）】

それでは、議題1の「全体構成」についてご説明いたします。始めに、原稿について訂正がございます。工藤委員から追加でいただける原稿があるようです。事務局での確認が足りず申し訳ございません。これから全体構成について議論いたしますが、工藤委員から後日いただいた原稿については、事務局側で構成させていただき、皆様には初稿以降でご確認いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。では具体的な議論に入っていきたいと思えます。先日お渡しいたしました原稿は、志賀委員にご助言をいただきながら、全体的な構成を案としてご提示させていただきました。すでにお読みいただいたことと思えますが、全体を通してご意見がありましたら、ご発言いただきたいと思います。また、現時点では図や地図類の掲載が少ない状態ですので、その点もご意見をちょうだいしたいと考えております。このあたりをご提案いただけますと、編集業者への依頼がスムーズになりますので、よろしくお願いいたします。

【田岡委員長】

どなたか意見ありますか。では順番にお願いします。

【石橋委員】

今の原稿で何ページくらいになりますか。

【事務局（工藤副館長）】

文字数だけで言うと130～140ページくらいですが、これに地図などが入ると160ページくらいになり、叢書の1巻2巻と同じくらいの分量になるのかなと思っております。

【石橋委員】

これに年表が付くんですね。

【事務局（工藤副館長）】

はい、付きます。只今志賀委員と制作中です。

【石橋委員】

わかりました。私からは以上です。

【志賀委員】

A3の紙を見ていただきますと、生活のことや聞き取りの内容が多いように思えますが、文章の長い短いがあるので、分量としてはそれほど多くないです。油田の様子を簡単に伝えるため、油田の存在を知らない方のために、最初に導入のようなものとして、今でも石油が湧いていることや昔の人で賑わっていた様子が伝わるような話を最初に2つ持ってくる構成を提案します。その後に石狩油田の誕生前夜、石油とは何か、街や生活の様子、という構成にしました。修正の必要な箇所については、例えば田岡委員の帝石八の沢鉱業所の風呂で泳いだというエピソードを冒頭に持ってきたのですが、冒頭のところで賑やかで栄えていた頃の様子が一言あれば、と思っております。また、小学生には難しすぎるものも結構あるので、脚注や各文の末尾に注をつけていければ、と考えております。また、内容の被りや、同じ内容なのに少し記載が違う、というようなこともありました。

【工藤委員】

私の原稿の提出が遅れて皆様にご迷惑をおかけしました。私の担当は石狩油田の解説部分になるかと思えます。山田先生がかなり詳しい部分を書いているので、被らないようにしなければと思うのですが、内容が細かすぎても大まかすぎてもいけないことから、構成に時間がかかっております。あまり遅れないように提出したいです。

【村山委員】

全体を読んだときに、それぞれ専門に調べられている方の文章に対して特に意見は無いのですが、工藤委員や石橋委員が書いた文と、山田先生が書いた文を比べた時に、年代や数字に違いが出てきているのではないかと思ったのですが、私も専門ではないので、読み流しました。わかる方がいたら比べてみるのも良いかもしれません。

【三島委員】

村山委員と同様、内容の被りが気になりました。あと、志賀委員の文章のです・ます調などの文体が異なっており、面白いと思いました。また、取材内容を事務局がうまくまとめてくれていて、良かったと思います。

【田岡委員長】

ありがとうございます。ところで、この私の書いた原稿ですが、古いものではないでしょうか。内容も少し変えた気がします。

【事務局（工藤副館長）】

こちらで確認します。後日、委員長に見ていただきたいです。

【田岡委員長】

わかりました。文体の違いについては、前回や今までと同様にそのままで良いのではないのでしょうか。無理には統一できないのではないかと思います。内容の被りについては、どのように整理するかも含めて検討しなければならないと思います。そこまで手間を掛けなくても良いのではないかと思います。あと叢書の最初の方に、流れを作る概略が必要なのではと思います。

【石橋委員】

年代の違いについては、読んだ本の違いによって生まれた可能性があり、それを統一するのも調べなければならないことから、ある程度は仕方ないのではないかと思います。

【田岡委員長】

一度、事務的に再整理すれば、ある程度減ると思います。A3の一番左の列のまとめ方について意見はありませんか。まとめたのは志賀委員でしたでしょうか。

【志賀委員】

はい、さっき伝えた通り、最初の導入部分で、油田とはなんだ、油田があったということ传达了かったです。

【田岡委員長】

ここにある原稿で足りますか。

【志賀委員】

長くなくてもいいんですが、そもそも石狩油田とは何か、というような話が必要なのではないかと思います。読者に最初にイメージを持ってもらうことが大事かと思います。

【田岡委員長】

構成としては、時期、産業、生活という順番ですよね。時代順で構成するのは難しそうですね。

【志賀委員】

三島さんの聞き取りの文章については、皆さんの時代の幅が様々で、時間軸も飛び飛びになっているので、順番通りにするのは難しいですね。

【三島委員】

もうすでに亡くなった人も多く、時代順にするのは難しいです。江戸末期から存在し、いまだに石狩のあちこちの油田で、影響を受けて生きている、生活している人がいるということを最初の話で書いていけば、石狩の石油に関する内容を包括するのではないのでしょうか。

【田岡委員長】

工藤委員の原稿も似たような構成でしたよね。集まっている原稿の中でプロローグは作ることができるのではないのでしょうか。どなたかやりたい方はいませんか。石橋さん、どうですか。

【石橋委員】

このままで十分ではないでしょうか。手を出してしまうと構成を含めて再度すべてやり直しになりかねないので。

【田岡委員長】

巻頭言で軽く触れるという手もあるので、細かい部分は改めて考えましょう。

【石橋委員】

そこに挨拶を入れれば良いかもしれないですね。

【田岡委員長】

1～2ページの中に、縄文時代からついこの間までの話を少し書けば、心構えがあるので、本文に入る前におおよその全体の流れが見えます。あとは何かございますか。無ければ大体このような形で次の作業に入っていただき、原稿の取りまとめが完了した時点で、皆様に配

付いたします。その間に、1～2ページくらいで私が冒頭部分をまとめます。また、年表は吉岡さんが作ってくださいましたね。

【事務局（吉岡主任）】

私が作成した時点では膨大な状態だったので、そこから必要な部分を残す作業を志賀委員と行っています。

【志賀委員】

その一方で、私の考えとして、本文を読む際についてですが、文章を読むことに抵抗が無い人は置いといて、文章が長々と書き連ねており、そうでない人にとっては読みづらいものだと思います。そこで、なるべく地図を出そう、ということや、年表も図示するような形にしよう、というようなことを吉岡さんと相談しました。いかがでしょうか。

【三島委員】

良いと思います。

【田岡委員長】

一目見て全体の流れが見れるものは必要だと思います。

【石橋委員】

年表にできるだけ根拠を入れて欲しいです。どこを参考にした、というのがあったら、後でチェックしたいという人もいます。

【志賀委員】

物足りない人、より詳しく知りたい人が調べられるように、どこから引用してきたかを記載しようと思います。

【田岡委員長】

次の委員会は、原稿の修正が終わり、印刷業者に回す前に開きますか。

【事務局（工藤副館長）】

今のところのスケジュールとしては、9月上旬頃に印刷会社の方に依頼しようかなと思っています。そこから大体一ヶ月くらいで初稿の原稿が出来上がってきますので、その段階で再度委員会を開こうかなと思っています。

【田岡委員長】

印刷後に手戻りがたくさん起きるってことは無いですよ。委員会を開くか開かないかは別にして、1度皆で確認する必要があるそうですね。

【事務局（工藤副館長）】

承知いたしました。志賀委員がおっしゃっていた全体的な構成、図、間に合えば年表も含めて再度確認していただいて、良ければ印刷するという形にしましょう。

【田岡委員長】

この本は読み手側にとっては苦勞しそうですね。話が飛び飛びで、同じような案件もあります。

【志賀委員】

石狩の八の沢鉱油所という大きな話題の後、大きな流れの中で、様々なエピソードがどこに位置づけられるかを図示化すれば、読み手も楽になるかと思います。

【田岡委員長】

手稻の軽川まで入れた地図も必要かもしれませんね。この本を扱ってるエリアはここまでです、ということを示すことが必要かもしれません。八の沢の山のエリアを描いた絵ならありましたね。大きく扱うかが問題です。

【志賀委員】

工業所のイラストのような俯瞰図、鳥瞰図は岩本さんのものを使えばあります。

【三島委員】

私が取材した手稻郷土史研究会の鈴木さんという方についてですが、9月10日に研究会で石狩油田と軽川のあたりの発表をするんだそうです。本人の代わりにその日発表するのが茂内先生なので、発表会を聞きに行き資料をもらった後、それを吉岡さんに差し上げます。

【事務局（吉岡主任）】

茂内先生通じて、つい先日、鈴木さんが直接書いたものが手元にあります。これをおそらく9月10日に、というふうに思っているんじゃないか、というところですか。どこまで載せるかという点は、構成の中で考える必要があると思います。

【三島委員】

載せるかは別として、参考資料としてはあった方が良いでしょうね。

【田岡委員長】

今日はこの辺で良いですかね。しばらく作業を続けて、このあともう一度集まるかを検討させていただきます。

次第3 議題（2）石狩叢書第4巻の発刊スケジュールについて

【事務局（工藤副館長）】

発刊までの大まかなスケジュールについて説明いたします。お手元の資料をご覧ください。9月上旬に編集業者への初稿作成依頼を行う、というのが当初の予定でしたが、その前に最後に話し合いの場があれば良いのかなという話だったので、そのように進めていきたいと考えております。前回がかなりタイトだったのを踏まえ、今回のスケジュールはかなり余裕をもって組んでおります。また、会議のやり方や日程については今後ご案内いたします。

次第3 議題（3）その他

【事務局（工藤副館長）】

これから市役所で予算編成の時期に入り、来年度予算についても考えなければならない時期になります。当初の委員会の話では、7巻まで発刊をしようという話だったと思いますが、来年度、またそれ以降の発刊についてのイメージ、2年に一冊のペース、発刊するかしないかも含めて何かありましたら、改めてご確認させていただきたいなと思っておりますので、皆様の中での考えを聞かせていただければと思います。

【田岡委員長】

このメンバー、事務局体制なども含めて何かありますか。まとめられそうなテーマで思い浮かぶものはありますか？

【志賀委員】

以前、テーマの話が上がった際に、油田以外にいくつかテーマ候補があったかと思いますが、今それを挙げたからといって即決定にしないでいただきたいのですが、「石狩川」、主に下流域でしたら、歴史や自然など様々な面で扱えますし、叢書にふさわしいものの一つかなと思います。次でなくてもいいですが、今後どこかでやりたいなと思います。

【田岡委員長】

事業を継続するという前提で先ほどのテーマが挙がったところですが、大変申し訳ないですが、年齢の部分で個人的には厳しいです。サポート自体はぜひやらせていただきたいですが、皆様は続けたいですか。

【石橋委員】

出せるなら出した方が良いでしょう。石狩湾新港はどうだろう、というような話が出てたかと思います。

【田岡委員長】

新港でしたら、去年ここで展示会を開催しましたね。図録に関しては今やっと2校に入ったところだったはずですよ。港湾協会の方でも同様に本の作成を行っていて、2冊目を作るかどうかという話だそうです。当時の国交省職員など、専門に携わってきた人たちと北大の人が編集するという話も聞きました。ここら辺についてはもう一度確認します。実は9月の市民カレッジにて、石狩湾新港の話をするよう依頼がありました。主要なテーマが、「街の人たちで作り上げた石狩湾新港」です。

結局のところ、叢書についてはとりあえず継続し大枠で予算は取るという形でどうでしょうか。

【三島委員】

個人的に関わっていけるかいけないかは別ということですね。

【田岡委員長】

そうです。では、とりあえず当委員会無くすということは無しでいきましょう。それでよろしいですかね。

【事務局（工藤副館長）】

承知いたしました。委員会として、叢書は必要で、発刊していこう、ということであれば予算は取ります。

【三島委員】

委員長がおっしゃったように、私たちの年齢もあって2年ほどでも関わっていけるのかどうか、というのが最大の問題ですね。

【事務局（工藤副館長）】

メンバーは今後どうするかという話にもなります。郷土研究会にも高齢の方がいらっしゃるの、どのようにメンバーが変わってくるかという話になります。

【三島委員】

教育委員会として出すのであれば、文化財課が中心となって、石狩叢書をやめずに続けていけばいいのかなと思います。他の市町村の叢書にも、何年かに1回出すようなスタイルのところはあったかと思います。若い人の中で編集委員会に参加したい人もいるかもしれません。ただ、実際に続けていくなら、仕事として行った方が確実だと思います。

【田岡委員長】

一度公募してみても良いかもしれないですね。

【事務局（工藤副館長）】

以前にもその話は上がりましたね。

【村山委員】

将来的には色々と変わっていきそうですね。

【田岡委員長】

とりあえず継続するにも色々と確認をしていきましょう。その他何も無ければこれで閉会いたします。皆様、ありがとうございました。

令和7年10月15日 議事録確定

石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 委員長

